

やさしい解説

# AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊  
第40号 平成23年1月号

初春に  
想い描いた  
夢もかなえる



発行



有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2

TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467

URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>

E-Mail [info@motomiya-mcs.jp](mailto:info@motomiya-mcs.jp)

## IT 2010年のIT業界を振り返って

新年あけましておめでとうございます。2010年はiPadの発売に代表されるようにIT業界には新しい波が押し寄せてきました。ここであらためて2010年のIT業界の動きを振り返ってみます。

### iPad 発売!

2010年の大きな出来事のひとつにiPadの発売がありました。iPhoneで培った秀逸なタッチパネルの操作感をそのまま受け継ぎ、インターネットへの親和性の高さや、30万個とも言われる様々な“アプリ”を武器に、その使い道は広がっていきます。全社的な導入を決める企業も出てくるなど、個人ユースだけではなくビジネスユースでも活用され始めています。



<Apple社 iPad>

### 電子書籍元年

これまで日本では電子書籍の普及が進んでいるとは言えない状況でした。しかし、iPadが発売されると電子書籍への関心が一気に高まり、著名な作家が相次いで電子書籍を電子出版するなど、2010年は日本における「電子書籍元年」となりました。また、所有している本をスキャナで読み取り自分で電子化することを「自炊」と呼び、自炊派の増加に伴いスキャナの販売台数が急激に伸びるなど、電子書籍は社会現象となりました。さらに2010年12月にはシャープ社とソニー社がそれぞれ電子書籍端末を発売するなど、この動きは今後も加速していくものと思われます。

### スマートフォンとスレートPC

携帯電話業界にも大きな波が押し寄せてきました。スマートフォンです。出遅れていたauが新製品で巻き返しを図るなど、スマートフォン界隈は話題が絶えません。携帯電話全体の販売台数に占めるスマートフォンの比率も35.5%に達するなど(BCNランキング2010年11月集計より)、スマートフォンは今後より一層普及が進むと思われます。

パソコン界隈では「スレートPC」(スレート=石板)

の開発が本格的に進んでいます。キーボードがなくタッチパネルで操作を行うなど、まるでiPadのようですが、普通のパソコンと同等のWindows 7が搭載されているので普段使用しているパソコンのソフトウェアがそのまま動きます。

しかし、ほとんどのソフトウェアがタッチ操作向けには作成されていないなど課題も多くあり、今後の対応が期待されます。



<オンキヨー社 TW シリーズ>

### クラウドの本格的普及

インターネットを経由して様々なサービスを利用する「クラウド・コンピューティング」も一気に普及し始めました。これまでもASPやSaaSといった同様の仕組み・概念はありましたが、普及したとは言えない状況でした。クラウドではソフトウェア機能の提供にこだわらず、オンラインストレージサービスや、「Evernote」のようなドキュメント管理システムといった機能・サービスの提供を行っていることが成功の一因だと思われます。これらはスマートフォンでの利用も可能で、会社・自宅ではパソコンから、外出先ではスマートフォンからアクセスして利用するなど状況により使い分けことができ、とても便利です。

### パソコンのモニタも3D!

映画や家庭用テレビでは3Dが話題ですが、パソコン用モニタにも3Dの波が訪れてきています。CADソフト業界では、3次元モデルを3Dモニタで立体映像で見せてプレゼンするという試みがすでに始まっています。

### 未来への第一歩

2010年は、子どもの頃に思い描いていたような近未来を感じさせる技術が次々に実用化され始めました。iPadなどの新しいデバイスの登場やスマートフォンの普及により、いつでもどこでもITサービスを楽しむことができる「ユビキタス社会」の到来が現実として感じられる一年でした。

2011年は一体どんなIT革新が待っているのか、とても楽しみです。

**編集後記** 本文に書けませんでした。2010年の動きとしてTwitterとUSTREAMを忘れてはいけません。Twitterの140文字の“つぶやき”を広告・宣伝に活用する企業も増えました。USTREAMは誰でも簡単に映像の中継配信が行えます。どちらもリアルタイム性に優れ、情報発信に大きな変化をもたらしています。デバイスの進化と共に、この「リアルタイム性」が一つのキーワードになってきていると感じます。「今」に乗り遅れないようにアンテナを張っておきたいですね。(本田)